

2012年11月6日

一般社団法人日本オオカミ協会
会長 丸山 直樹

シカなどの獣害から生態系（生物多様性）・農林業・生活の安全を守る オオカミ復活に関する市民協議会「静岡・三島」開催についてのご案内

全国各地でシカ、イノシシ、サルなどによる獣害が激しさを増しています。これは森林、農林業、鉄道、自動車、人身など多面に及び、危機的状況となっています。これに対し、地域住民、農林業者、自然保護団体、行政など各方面で多様な努力が続けられていますが、一向に成果が見えません。ただ財政的負担と危機感が増すばかりです。この原因は、当たり前のことながら、増加一方のシカ、イノシシ、サルの個体数を減らせないことにあります。その理由は、ここ三十年間の狩猟者急減によって、捕獲が追いつかず、有害駆除も効果が上がらなくなってきたからです。もっと困ったことには、その実施すら難しくなっています。

この問題解決のためには、旧来の思考にとらわれない、自然生態系の原理法則に根差した新しい発想が必要です。この答えは、ずばり申し上げて、「生態系の自然調節機能、すなわち食物連鎖の復元」です。すでにご承知のように、この自然調節機能は明治期のオオカミ駆除・絶滅によって完全に破壊されたままです。今日の深刻な獣害の原因はここにあります。獣害問題解決には生態系の食物連鎖のカナメである頂点捕食者オオカミの再導入が必要であることは自明です。しかし、環境省はじめ関係行政は、国民のオオカミに関する偏見と誤解を口実にして一向にこの復活に取り組む気配を見せません。

そこで、2012年4月、本協会はオオカミ復活推進を求める94,500人の署名を環境、農水両省に提出しました。同時に、昨年秋と本年春、北海道札幌から九州人吉まで、全国12都市で公開シンポを実施し、多くの賛同を得ました。しかし、依然として地域住民の合意形成の困難性を口実にして行政は一步踏み出す様子を見せません。そこで、本協会では、この獣害問題に関心をお持ちの関係個人、団体にご参集いただき、住民合意形成を進める意見交換の場としての表記市民協議会の開催を提案させていただきます。本協会では、全国に先駆けて、地域合意形成地域として中部・東海地方に着目して運動を進めております。

すでに、長野県篠ノ井、山梨県南アルプス市で同様の集会を開催し、長野オオカミ協会、南ア市議会獣害対策協議会、富士川町オオカミ再導入勉強会、日本高山植物保護協会、水木の会、南伊豆獣害対策協議会をはじめとした多数の団体、個人の賛同と協力を得ています。静岡県、愛知県にまたがる東海地方でも同様に獣害問題は地域を問わず発生しています。農林業被害だけでなく、交通事故が日常化し、人身事故すら発生するようになりました。南アルプ

ス、富士山、伊豆地方では特に深刻です。

そこで、今回は、東海地方のこれまでのシンポや集会でお名前を頂いた皆様や本協会会員を中心にご案内させていただいております。ご関心の方々をお誘いの上、多くの方々にご参加いただき、ご意見賜りますようご案内さし上げる次第です。

恐れ入りますが、お手数でも、ご参加の可否につきまして下記担当までご連絡いただければ幸いです。

記

日時：2012年12月2日（日）13：30～16：30

場所：三島市民会館特別会議室

議事次第：① 基調講演「オオカミ復活とそのシミュレーション：中部」

丸山直樹（日本オオカミ協会会長）

② 意見交換：地域住民の理解と合意形成の進め方：署名、アンケート調査、集会開催など

□ 問い合わせ・参加申し込み：お手数でも下記宛にお願いします。

秋葉 哲雄

一般社団法人日本オオカミ協会常務理事

〒190-0021 東京都町田市相模原 883-1

TEL 080-1198-3561 Eメール takiba1@ybb.ne.jp

以上